

こども・若者計画

(素案)

2026年（令和8年）3月
明石市

わたしたちの想い

私たちは、明石市に住み、学び、働くこども・若者として、これからの中のまちを、私たち自身の言葉で考え、計画にまとめることになりました。

この計画を考えるために、明石市が行った公募に応募し、「未来の明石のまちづくりに関心がある」という思いをもったこども・若者が集まり、こども・若者会議のメンバーとして話し合いを重ねてきました。

私たちは、明石のこども・若者の代表として、自分たちの意見だけでなく、学校でのワークショップやアンケートを通して、より多くのこども・若者の声を聴きながら、未来の明石のまちづくりにつながる「こども・若者計画」をつくってきました。

これまで、まちのことは大人が決めるものだと思っていた人も多かったと思います。でも、私たちは日々の生活の中で、「こうだったらいいな」「ここが少し困っている」「もっとこうしてほしい」と感じることがたくさんありました。

この計画は、そうした思いを出し合い、話し合い、こども・若者自身の声をもとにまとめたものです。こども・若者のための計画であると同時に、こども・若者自身が考え、つくった計画です。



第1章 私たちが考えた計画

1 話し合いをするまでのルールを決めました

私たちは、市の公募に応募して集まった、年齢も学校も生活も違うこども・若者です。小学1年生から大学生、社会人まで、初めて会う人ばかりでしたが、「未来の明石のまちづくりに关心がある」という思いは同じでした。

最初の会議では、緊張している人もいましたが、フルーツバスケットやじゃんけん列車、自己紹介などを通じて、少しずつお互いのことを知り、話しやすい雰囲気をつくっていきました。

そして、これから一緒に話し合っていくために、みんなが安心して意見を言えるように、私たちは自分たちで「話し合いのルール」を決めました。

それが、次の3つの約束です。

- たくさんおしゃべりしよう
- いろんな人の意見を聞こう
- お互いにお手伝いしよう

この3つは、誰かに決められたものではなく、私たち自身が「こうだったら話しやすいよね」と話し合って決めたものです。

この約束があったからこそ、年齢の違いや立場の違いをこえて、安心して意見を出し合うことができました。

2 今の明石のまちについて話し合いました

私たちは、計画をつくる前に、まず「今の明石ってどんなまち?」というところから話し合いを始めました。年齢も学校も違う私たちが集まつたからこそ、見えている景色や感じていることも違っていて、その違いを出し合うことが大切だと思ったからです。

(1) 明石の「好きなところ」「いいところ」

話し合いでは、まず明石の良いところがたくさん出てきました。

● 海・自然・食べ物の豊かさ

- ・「海が近くて、魚がいっぱいでおいしい」
- ・「明石焼、あなご、たい、たこ…ご当地グルメが好き」
- ・「海の景色がきれい。大蔵海岸からの眺めが好き」
- ・「山や自然もあって、虫取りや探検ができる場所がある」

▶小学生から若者まで、海と食べ物の魅力は共通していました。

● 公園や遊べる場所がある

- ・「公園がいっぱいあって好き」
- ・「ボールが使える場所があるのがいい」
- ・「明石公園でイベントが多くて楽しい」

● 図書館や駅前の便利さ

- ・「図書館が駅のすぐ近くにあって便利」
- ・「JRと山電の両方があってアクセスがいい」
- ・「駅前がきれいになって、ピオレも楽しい」

● 人のあたたかさ・地域の雰囲気

- ・「やさしい人が多い」
 - ・「地域の行事が多くて、交流がある」
 - ・「子どもへの支援が厚い。医療費が無料なのが助かる」
- ▶年齢が上がるほど、暮らしやすさ・支援の手厚さを感じている声が多くありました。

(2) 明石の「気になるところ」「もっとこうだったらいいな」

良いところと同じくらい、改善してほしいところもたくさん出ました。

● 安全・安心に関する声

- ・「高架下をもっと明るくしてほしい」
- ・「信号を増やしてほしい」
- ・「防災のイベントや避難の仕方をもっと知りたい」

● 遊び場・居場所の不足

- ・「共用ゲームができるところがほしい」
- ・「ユーススペースが人気で席がないことがある」
- ・「室内で遊べる場所がほしい」
- ・「ゲームセンターや映画館がもっとあったらいい」

● 公園・環境に関する声

- ・「遊具が少ない公園がある」
- ・「公園の木や植物をもっと増やしたい」
- ・「海のゴミを減らすイベントをしたい」
- ・「魚や生き物がもっと増える海にしたい」

● 交通・移動に関する声

- ・「バスの本数を増やしてほしい」
- ・「駅が混雑」
- ・「西側の地域はお店が少なくて不便」

● 多様な人が過ごしやすいまちに

- ・「障害のある人と一緒に遊べる場所がほしい」
- ・「外国人の人と交流できるイベントがほしい」

(3) 話し合いを通して見えてきたこと

年齢が違うと、見えている明石の姿も違いました。でも、話し合いを重ねる中で、共通している思いがあることに気づきました。

- ・安心して過ごしたい
 - ・自分の居場所がほしい
 - ・もっと明石の魅力を知ってほしい・広めたい
- 「好き」と「気になる」の両方を出し合ったことで、私たちは、明石のまちの“今”を、こども・若者の視点でしっかり見つめることができました。
- この気づきが、次の項で決めた基本理念につながっていきます。

3. 私たちが目指したい明石の姿（基本理念）を決めました

私たちは、明石のまちの「今」を見つめたあと、その時に出た意見も振り返りながら「これから明石がどうなってほしいか」を考えるために、一人ひとりが思っている理想の姿を出し合いました。最初は、身近な願いや思いから始まりました。

(1) こんな明石になつたらいいな

● 安全・安心に関する願い

- ・「夜道が暗いから、もっと明るくしてほしい」
- ・「駅から家までの道がこわい。安心して歩けるようにしてほしい」
- ・「交通事故が多いニュースを見ると不安になる」
- ・「防災イベントをしてほしい」
- ・「小児の夜間救急に対応している病院が少ない」
- ・「スクールガードさんがいてくれると安心する」
- ・「防災キャンプをしたい」
- ・「海のゴミを減らすイベントをしたい」

● 居場所・遊び場に関する願い

- ・「中高生が自由に集まれる場所がほしい」
- ・「ユーススペースが人気で席がない。新しいユーススペースがほしい」
- ・「室内で遊べる場所がほしい」
- ・「ボールが使える大きな公園がほしい」
- ・「夏に涼めるスペースがもっとほしい」
- ・「いろんな年齢の人が話せるスペースがほしい」
- ・「推しカフェがほしい」
- ・「かわいい食べ物があるこども食堂がほしい」
- ・「こども食堂でみんなで作って、みんなで食べたい」

● 学び・学校に関する願い

- ・「不登校の子への理解を深めてほしい」
- ・「先生方の意識を変えてほしい」
- ・「ふつうの“学校”ではない、学びの多様化した学校がほしい」
- ・「習い事の支援をしてほしい」
- ・「高校進学へのお金の支援がほしい」

- ・「スマホで図書館の本を読みたい」
- ・「図書館の返却をアプリでできるようにしてほしい」

● まちの魅力・文化に関する願い

- ・「明石の海の魅力をもっと伝えたい」
- ・「海の特産物を売る場所を増やしてほしい」
- ・「小さな水族館やタッチプールがあつたらいい」
- ・「明石の海の生き物をもっと知りたい」
- ・「花火のお祭りがあつたらいい」
- ・「日本最大級の音楽フェスをしたい」
- ・「ドームでライブができるようにしてほしい」
- ・「観光客をもっと増やしたい」
- ・「世界中から注目される明石になってほしい」

● 多様性・つながりに関する願い

- ・「障害のある人と一緒に遊べる場所がほしい」
- ・「外国人と交流できるイベントがほしい」
- ・「家から出られる人も出られない人も声を聴けるようにしたい」
- ・「いろんな人が笑顔で話し合えるまちにしたい」
- ・「自分の困っていることを一緒に解決してくれる場所がほしい」

(2) 次に「どうしてそう思うのか」を深く考えました

これまでに出された意見について「どうしてそう思ったのか」「どんな気持ちがあるのか」を話し合いました。話し合いの中では、次のような理由や思いが出てきました。

- ・ 明石の海の魅力が、十分に伝わっていないと感じること
- ・ 経済的な理由で、習い事や体験の機会が限られていると感じること
- ・ 安心して過ごせる居場所が必要だと感じること

►こうした理由や気持ちを確かめながら、意見の背景にある思いを整理していきました。

(3) たくさんの意見を重ね合わせて、ひとつの理念にたどり着きました

安全であること、安心できること、自分の声が届くこと、実現につながること。

どれか一つではなく、全部がそろってこそ、私たちが望む明石になるという思いが強くなっていきました。

そして、何度も言葉を考え直しながら、私たちは次の基本理念にたどり着きました。

(4) 私たちが決めた基本理念

「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまち あかし」

この言葉には、誰か一部の人だけではなく「こどもも若者も、大人も、高齢者も、みんなが大切にされる明石になるように」という願いが込められています。

4. 基本理念を実現するための3つの柱を決めました

私たちは、第3項で決めた基本理念「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまち あかし」を実現するために、どんなことが必要なのかを考えました。

その際、こども・若者会議で出た意見だけでなく、市長・副市長と一緒に学校（小中学校・高校・大学）に赴き実施したワークショップで集めた1,608件の声やアンケート（小学生・中高生・若者）で集まった15,793件の声も分析し、会議での意見と照らし合わせながら整理していきました。

アンケートの結果は、会議で出た意見と重なる点が多く、「こども・若者が今、大切にしたいと思っていること」について世代をこえて共通するキーワードが見られました。

(1) アンケートで特に多かった声

① 安全・安心に関する声

アンケートでは、どの年代でも「安全・安心」に関する回答が多く、会議での意見と強く一致していました。

- 「夜道が暗くてこわい」
- 「通学路の交通安全をもっと強化してほしい」
- 「災害のときにどうすればいいか不安」
- 「防犯カメラや街灯を増やしてほしい」

▶特に中高生では、「帰宅時の不安」や「駅周辺の安全」に関する回答が多く、会議でも同じ意見が多数出ていました。

▶小学生では、「公園で安全に遊びたい」「見守りがあると安心」といった声が多くありました。

② 居場所・つながりに関する声

アンケートでは、「家でも学校でもない、安心して過ごせる居場所がほしい」という声が多く、会議での議論と重なる点がありました。

- 「静かに過ごせる場所がほしい」
- 「中高生が自由に集まれる場所が少ない」
- 「ユーススペースが混んでいて使えないことがある」
- 「悩みを相談できる場所がほしい」
- 「人とつながれる場所がほしい」

▶中高生アンケートでも、居場所に関する声が見られました。

▶若者アンケートでは、「相談できる大人がほしい」「孤立しない環境がほしい」という声が多くありました。

③ 声が届く仕組みに関する声

アンケートでは、自分の意見が社会やまちづくりに届いているか分からないと感じる回答が一定数あり、会議で出た意見とも重なる部分がありました。

- 「意見を言える場所がほしい」
- 「SNSで意見を届けられるようにしてほしい」

- ・「意見がどうなったか教えてほしい」
 - ・「少数意見も大切にしてほしい」
- 特に若者アンケートでは、自分の意見がどのように反映されているのか分かりにくいと感じる回答が見られました。

(2) アンケートと会議の意見を重ね合わせて、3つの柱を整理しました

会議で出た意見とアンケートの分析結果を照らし合わせると、複数の年代に共通する大切な視点が見られました。

それは、「命や安全が守られていること」「安心して過ごせる居場所があること」「自分の声が尊重され、実現につながること」という3つの視点です。

これらは、会議での議論だけでなく、アンケートで寄せられた 15,000 件を超えるこども・若者の声の中にも、共通する傾向として見られました。そのため、私たちはこの3つの視点をもとに、基本理念を実現するための「3つの柱」を決めました。

(3) 私たちが決めた3つの柱

柱1 「あらゆる危険から命が守られ、自然と共に快適に暮らせる環境づくり」

→ アンケートでも「安全・安心」に関する声が多く見られました

柱2 「人と人がつながれて、笑顔で、時に逃げられる居場所づくり」

→ アンケートでも、居場所や相談先に関する不安の声が見られました

柱3 「少ない意見でも平等に伝えられる場所や、受け止められる権利を確保する仕組みづくり」

→ アンケートでも、意見が届いているか分かりにくく感じた声が見られました

(4) アンケートと会議の両方の声をもとに、柱を確定しました

この3つの柱は、こども・若者会議の議論だけでなく、アンケートで寄せられた声の中にも共通する視点として見られ、明石のこども・若者が大切にしていることがうかがえました。

そのため、私たちはこの柱を、基本理念を実現するための考え方として整理しました。

5 3つの柱に基づいて取り組むべき具体的な施策を考えました

私たちは、第4項で決めた3つの柱をもとに、「明石がこうなってほしい」という思いを、実際の取組(施策)としてどのように形にできるかを話し合いました。

ここでまとめている施策は、こども・若者会議での議論だけでなく、学校でのワークショップやアンケートで寄せられた 15,000 件を超えるこども・若者の声を分析し、それらを重ね合わせて整理したものです。

施策は、「してほしいこと」だけでなく、話し合いを通して大切だと考えたこととして整理しています。

【柱1】 あらゆる危険から命が守られ、自然と共に快適に暮らせる環境づくり

この柱は、アンケートや会議の中で多くの意見が寄せられたテーマの一つです。「安全・安心」は、複数の年代で共通して大切にされている視点として見られました。

① 安全・安心なまちづくり

- 夜道や通学路の安全・防犯対策
 - 「夜道が暗くてこわい」
 - 「駅から家までの道が不安」
 - 「横断歩道を増やしてほしい」
 - 「カーブミラーの設置」
- 交通安全の強化
 - 自転車・歩行者・車の道を分ける
 - スピードを出しにくい道路設計
 - こどもが渡りやすい横断歩道の整備
- 防災への備えと減災の取組
 - 「避難の仕方をもっと知りたい」
 - 「津波が来ても大丈夫な場所がほしい」

② 快適で自然にやさしい生活環境づくり

- 公園の改善
 - 「遊具が少ない」
 - 「手洗い場が必要」
 - 「ボール遊びができる場所がほしい」
 - 「小さい子が安全に遊べる柵がほしい」
 - 「自然と調和した公園の整備」
- 自然環境の保全とまちの美化
 - 「海のゴミを減らしたい」
 - 「海の生き物を守りたい」
 - 「花や緑を増やしたい」
 - 「まちを清潔できれいに」

③ 情報伝達や移動がしやすい環境づくり

- 情報アクセスの改善
 - 公共施設での Wi-Fi 整備
 - 図書館のデジタル化（アプリ返却、電子書籍など）
 - 行政からの情報発信の強化
 - 市民から行政への手軽な通報手段の整備

● 移動のしやすさ

- ・バスの本数やルートの改善
- ・自転車道の整備
- ・駅周辺の安全対策

④ 健康と生活を支える基盤づくり

● 相談体制の充実

- ・「夜に相談できる場所がほしい」
- ・「気持ちを話せる人がほしい」

● 生活支援

- ・食の支援
- ・経済的な不安への相談
- ・健康に関する学びの機会

【柱2】人と人がつながれて、笑顔で、時に逃げられる居場所づくり

アンケートや会議の中で、「居場所がほしい」という声が多く見られ、複数の年代に共通する視点として挙げられていました。

① 安心して過ごせる居場所づくり

● 多様な居場所の整備

- ・「静かに過ごせる場所がほしい」
- ・「中高生が自由に集まれる場所が少ない」
- ・「ユーススペースが混んでいて使えない」
- ・「働く人が交流できるコワーキングスペースがほしい」
- ・「不登校の子が安心して過ごせる場所」

● 夜間・休日の居場所

- ・「夜に行ける場所が少なく、安心して過ごせる場所がない」
- ・「休日に安心して過ごせる場所がほしい」

② 体験や交流の機会づくり

● こども・若者が企画するイベント

- ・音楽フェス（屋外で実施する場合は近隣への配慮をする）
- ・文化祭
- ・交流イベント
- ・海の魅力を伝える企画
- ・地域の名産品を利用した交流イベント
- ・企画したイベントを実行するこども・若者グループの創設

- スポーツ・遊びの場
 - ボール遊びができる場所
 - 室内で遊べる場所
 - パブリックビューイング会場・観戦スペース

③ 学びと支え合いの環境づくり

- 学習支援
 - 夜も使える自習スペース
 - 勉強を教えてくれる場
 - 自習スペースの増設
- 多様な学び
 - 多様な学び方を選べる環境
 - 教える側の研修・支援の充実

④ 地域とつながる仕組みづくり

- 地域活動への参加
 - まちの魅力発信
 - 観光イベントへの参加
 - 清掃活動や環境保全活動
 - 地域の出会い・交流の場づくり

【柱3】少ない意見でも平等に伝えられる場所や、受け止められる権利を確保する仕組みづくり

アンケートでは、「意見が届いているか分からない」「反映されていると感じにくい」といった声が見られ、会議で出た意見とも重なる部分がありました。

① 声を聴き、反映する仕組みづくり

- 意見を出しやすい環境
 - SNSで意見を届けられる仕組み
 - 気軽に参加できる意見募集
 - 世代をこえた対話の場
- 意見の見える化
 - 「意見がどうなったか教えてほしい」
 - 「出した意見をトラッキングできる仕組みがほしい」
 - 「意見の処理状況や進捗を知らせてほしい」

② 相談場所と伴走支援の充実

- 相談しやすい窓口
 - オンライン相談

- 出張相談
- 若者向け相談窓口
- 繼続的な支援
 - 必要な人に寄り添い続ける伴走支援
 - 医療・福祉・学校との連携

③ 多様性と人権を大切にする取組

- 理解を深める学び
 - 人権・多様性に関する教育
 - 当事者の声を聴く機会のさらなる創出
 - 多文化交流イベント
- 差別やいじめへの対応
 - 学校外での相談体制の強化
 - 早期発見・早期対応

④ 挑戦と自己実現を支える取組

- やりたいことを応援する仕組み
 - 資格取得の支援
 - チャレンジを応援する制度
 - メンターとのつながり

◆こども・若者の声で明石の未来を変えて、動いていきます

ここにまとめた施策は、こども・若者会議での話し合いや、アンケートで寄せられた多くの声をもとにまとめられたものです。

私たちの声がきっかけとなって、明石のまちが変わっていく。そうした積み重ねで、明石の未来が動いていくと考えます。

この計画は、大人たちが受け止めて実行していきますが、自分たちも一緒に、これからも大人と対話しながら、明石の未来を創っていきます。

みんなが安全・安心で自分たちの声が尊重され、実現できるまちあかい

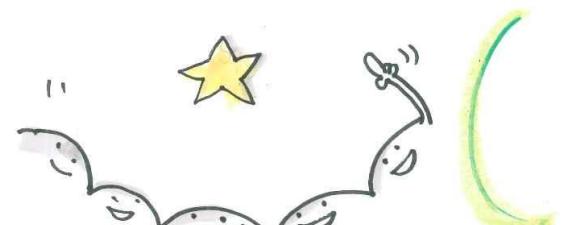
柱1 あらゆる危険から命が守られ
自然と共に快適に暮らせる環境づくり

- ① 安全・安心なまちづくり
- ② 快適で自然にやさしい生活環境づくり
- ③ 情報伝達や移動がやすい環境づくり
- ④ 健康と生活を支える基盤づくり



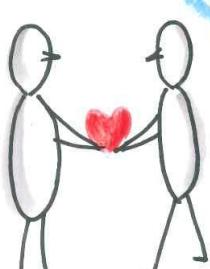
柱2 人と人がつながり、笑顔で、
時に遊びられる居場所づくり

- ① 安心して遊びられる居場所づくり
- ② 体験や交流の機会づくり
- ③ 学びと支え合いの環境づくり
- ④ 地域とつながる仕組みづくり



柱3 少ない意見も平等に伝えられる場所や
受け止められる権利を確保する仕組みづくり

- ① 声を聴き、反映する仕組みづくり
- ② 相談場所と伴走支援の充実
- ③ 多様性と人権を大切にする取組
- ④ 挑戦と自己実現を支える取組



6. まとめ

—私たちが考えた未来の明石を、大人たちと一緒につくっていくために—

私たちは、市の公募に応募して集まったこども・若者として、これまで何度も話し合いを重ね、「明石がこれからどんなまちになってほしいか」を自分たちの言葉で考えてきました。

第2項では、今の明石のまちについて、好きなところも、気になっているところも、年齢や立場をこえて出し合いました。

第3項では、その思いや願いを重ね合わせて、「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまち あかし」という基本理念を決めました。

第4項では、この理念を実現するために必要なことを整理し、アンケートで寄せられた多くの声とも照らし合わせながら、3つの柱をまとめました。

第5項では、その柱をもとに、明石の未来に本当に必要だと思う具体的な施策を考えました。

(1) この計画は、こども・若者の声をもとにした「私たちの計画」です

この計画に書かれている内容は、私たちが実際に感じていること、日々の生活の中で気づいたこと、そして「こうなつたらいいな」という願いをもとにしています。

- 夜道がこわい
- 居場所が足りない
- 自分の声が届かない
- 自然を守りたい
- もっと明石の魅力を知ってほしい
- 困ったときに相談できる場所がほしい

こうした思いは、会議に参加した私たちだけでなく、アンケートで寄せられた多くのこども・若者の声とも一致していました。だからこそ、この計画は、明石に住むこども・若者の「本当の声」をもとにつくられた計画です。

(2) そして、この計画は、大人がしっかり引き取って実現していくものです

私たちは、計画をつくる役割を担いましたが、この計画を実行していくのは大人たちです。

この計画が実現することで、私たちの声がまちづくりにつながり、未来の明石がより良いまちになっていく信じています。

大人たちがこの計画を責任をもって実施し、必要に応じて見直しながら進めていくことで、基本理念である「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまち あかし」に近づいていくと考えています。

(3) 私たちは、これからも明石の未来に関わり続けます

この計画づくりを通して、「自分たちの声がまちを変える力になる」ということを実感しました。これからも、「声を出し続けること」「まちのことを考え続けること」「こども・若者として関わり続けること」を大切にしていきたいと思っています。

そして、大人たちと一緒に、誰一人取り残されない、こども・若者が自分らしく生きられる明石をつくりていきたいと考えています。

おわりに

この計画は、私たちこども・若者が考えた未来の明石の姿です。そして、大人たちが責任をもって実施していくことで、この計画は「言葉」から「現実」へと動き出します。

私たちは、この計画が、未来の明石をより良くするための第一歩になることを願っています。

第2章 こども・若者が考えた計画を、市の責任で実現していくために

本計画は、明石市に住み、学び、働くこども・若者が、自らの声をもとに、未来の明石のまちについて考え、まとめたものである。

明石市は、本計画を、こども基本法第10条に基づく「市町村こども計画」として位置づけ、ここに示された基本理念、施策展開の柱及び具体的施策について、市の責任において実施していく。

市は、関係部局が連携しながら施策を推進するとともに、こども・若者の意見を引き続き聴きながら、施策の実施状況を踏まえた評価及び見直しを行う。

本計画は、こども・若者の声を起点とし、市がその声を受け止め、責任をもって実行していくための計画である。

1 計画の位置づけ

本計画は、国が定める「こども大綱」及び兵庫県が策定する関連計画を勘案し、本市のまちづくりの総合計画である「あかしSDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)」を上位計画として策定する。

2 子ども・子育て支援事業計画との関係

本計画は、こども基本法第10条に基づく市町村こども計画として、明石市のこども施策全体を総合的に推進するための計画である。

本市が策定する「明石市子ども・子育て支援事業計画」については、本計画との整合を図りながら施策を推進するとともに、計画期間や見直しの時期を踏まえ、将来的には本計画に包含し、一体的に運用していくものとする。

3 計画期間

計画期間は、2026年度から2029年度までの4年間とし、社会状況や施策の進捗を踏まえ、必要に応じて見直しを行う。

4 明石市こども・若者計画における基本理念・施策展開の柱及び具体的施策

本計画は、こども・若者会議における議論や、学校等でのワークショップ、アンケート等を通じて集められたこども・若者の声を踏まえ、明石市が市の責任において策定・実施する行政計画である。

本計画において、市が実施する施策は、以下に掲げる基本理念、施策展開の柱及び具体的施策に基づくものとする。

(1) 基本理念

「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまち あかし」

本計画は、すべてのこども・若者が、命や暮らしの安全が守られ、安心して自分らしく過ごすことができるとともに、自らの声が尊重され、社会やまちづくりに反映される明石の実現を目指すものである。

(2) 施策展開の柱

基本理念を実現するため、次の3つの柱に基づき施策を展開する。

- 柱1 あらゆる危険から命が守られ、自然と共に快適に暮らせる環境づくり
- 柱2 人と人がつながれて、笑顔で、時に逃げられる居場所づくり
- 柱3 少ない意見でも平等に伝えられる場所や、受け止められる権利を確保する仕組みづくり

(3) 具体的施策

(2)の施策展開の柱に基づき、明石市は次の具体的施策に取り組む。

【柱1】あらゆる危険から命が守られ、自然と共に快適に暮らせる環境づくり

- ① 安全・安心なまちづくり
 - 夜道や通学路の安全・防犯対策
 - 交通安全の強化
 - 防災への備えと減災の取組
- ② 快適で自然にやさしい生活環境づくり
 - 公園の改善
 - 自然環境の保全とまちの美化
- ③ 情報伝達や移動がしやすい環境づくり
 - 情報アクセスの改善
 - 移動のしやすさ
- ④ 健康と生活を支える基盤づくり
 - 相談体制の充実
 - 生活支援

【柱2】人と人がつながれて、笑顔で、時に逃げられる居場所づくり

- ① 安心して過ごせる居場所づくり
 - 多様な居場所の整備
 - 夜間・休日の居場所
- ② 体験や交流の機会づくり
 - こども・若者が企画するイベント

- スポーツ・遊びの場
- ③ 学びと支え合いの環境づくり
 - 学習支援
 - 多様な学び
- ④ 地域とつながる仕組みづくり
 - 地域活動への参加

【柱3】少ない意見でも平等に伝えられる場所や、受け止められる権利を確保する
仕組みづくり

- ① 声を聴き、反映する仕組みづくり
 - 意見を出しやすい環境
 - 意見の見える化
- ② 相談場所と伴走支援の充実
 - 相談しやすい窓口
 - 継続的な支援
- ③ 多様性と人権を大切にする取組
 - 理解を深める学び
 - 差別やいじめへの対応
- ④ 挑戦と自己実現を支える取組
 - やりたいことを応援する仕組み

5 計画の推進体制について

本計画は、すべてのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及び児童の権利に関する条約の精神に則り、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人として等しく健やかに成長することができるよう、心身の状況や置かれている環境等にかかわらず、すべての権利の保障が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態(ウェルビーイング)で生活を送ることができるよう、本市の施策を総合的かつ計画的に推進します。

本計画の推進にあたっては、関係機関・団体等との連携を深め、情報の共有化を図るとともに、家庭・地域・学校・事業者・行政など、それぞれがこども・若者を支える役割を認識し、相互に対話を重ね共創しながら、支援が必要なこども・若者に寄り添った施策の展開に努めます。

本市では、こども・若者政策の総合的な推進にあたり、あかしSDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)(以下「総合計画」という。)に基づき、総合計画に示した施策の展開方向との整合性を図りながら推進体制を整備します。また、施策の実施状況を評価(Check)し、改善(Action)につなげることで、マネジメントサイクル(PDCAサイクル)による効果的な推進を図ります。

さらに、明石市社会福祉審議会児童福祉専門分科会やこども・若者会議をはじめとする市民目線での意見・提言については、本市として次年度以降の施策の推進に活用します。

